

平成 2 8 年 1 月 2 5 日開催

石狩市教育委員会会議（1 月定例会）資料

< 報告事項 >

- ・平成 27 年度石狩市教職員研修「ウインターセミナー」の開催結果について

・・・ P 1 ～ P 6

<報告事項1>

平成27年度石狩市教職員研修「ウィンターセミナー」の開催結果について

1. 日 時 平成27年12月25日（金）
13:30～16:00
2. 会 場 りんくる 交流活動室、視聴覚室
3. 対 象 教職経験8年以下の市内小中学校全教諭
(期限付き教諭を含む)
4. 受講者数 小学校49名、中学校27名、計76名



小学校のグループ討議の様子

5. 内 容

(1) 講座名『基礎学力を高める指導と集団を育てる学級づくりの向上を目指して』

(2) 形式 提言及びグループ討議（小、中別に開催）

【小学校提言者】 植松 義智 教諭（双葉小学校）

【中学校提言者】 加藤 孝章 教諭（花川南中学校）

【グループ討議】 小学校11グループ、中学校6グループの小グループに分かれて討議

①参加者の自己紹介、提言内容の感想交流

②基礎学力を高める指導の実践交流

③集団を育てる学級づくりの実践交流

④現在抱えている悩みについての交流

13:00 13:30 13:40

15:10 15:20 15:50 16:00

受付	開移	テーマ 『基礎学力を高める指導と集団を育てる学級づくりの向上 を目指して』 90分	移動 ・ 休憩 10分	発講 表評 4ま 名と め 30分	閉 会 式 10分
	会動	小学校 交流活動室			
	式 10分 交流活動室	提言（植松 義智 教諭）30分 ⇒ グループ協議 60分			
		中学校 視聴覚室			
		提言（加藤 孝章 教諭）30分 ⇒ グループ協議 60分			



植松教諭の提言の様子



加藤教諭の提言の様子

1. 現在、基礎学力を高める指導の向上を目指して工夫している点

【小学校】

- ・ ルールの徹底（机上整理、姿勢、発表の仕方、チャイム席、挨拶、返事などの生活面等）
- ・ 教えてから、考えさせる授業の構成
- ・ 日々の授業で、みんながわかる授業のための教材研究（板書・ノートづくりの工夫）
- ・ 1 単位時間の見通しをもてる授業づくり，ゲーム的要素を取り入れた学習
- ・ 学習を理解させるための手立て（ICT活用，反復学習，スモールステップの学習・放課後学習）
- ・ 徹底した反復学習（ドリル等の活用：漢字・計算など）
- ・ 早く目標を達成した児童を先生役にすることで、学級全体の意欲・全体の底上げを図る。
- ・ 同じ学年の先生方と授業の進度、進め方、ポイントなどの確認
- ・ 実生活や社会でどのように役に立つのかという視点の設定
- ・ 楽しんで学習できるように、頭と体を動かす喜びを感じられるように。
- ・ 通常学級と支援学級との関係性を大事にし、交流学級の担任や学年との密な連携
- ・ 課題、まとめは全員で読む。全員が授業に参加している意識をもたせる。
- ・ ふわふわ言葉(やさしい言葉)を掲示し、ちくちくした嫌な言葉を使わないように指導
- ・ 話し合いの場面において、他者の意見を受け入れる指導。(批判的な発言はしない指導)
- ・ 実態に応じた授業づくり。児童の実態に応じた課題を設定し、「わかる」「できる」という達成感を味わえる授業を心がけている。
- ・ 家庭学習の充実（毎日の宿題、家庭学習の提出、学級通信での紹介・家庭への啓蒙）
- ・ 子供たちの思いをきちんと聴くようにし、ひとりひとりの思いを大切に、そこから学級としてどうまとめていくか、担任の思いも伝えながら学級としてできること、すべきことを一緒に考えるようにしている。

【中学校】

- ・ 課題とまとめが一体化した授業作り
- ・ 明確な課題を授業の導入での提示
- ・ 生徒に身につけさせたい力を意識させ、授業の振り返りの場面で確認
- ・ 学習規律の徹底
- ・ 小単元ごとの振り返りテストの実施
- ・ 言語活動の充実
- ・ 学校全体として、家庭学習を習慣づけるために、ノートのチェックを行っている。職員室に提出一覧表をはり、毎日家庭学習を行うよう、学級担任・教科担任で指導を行っている。
- ・ 家庭学習の定着の推進、教科を横断した指導の工夫
- ・ 家庭学習の視覚化などで、生徒のやる気を促す
- ・ ペア学習やグループ学習のときに、上位・中位・下位層を混ぜることでのねりあい
- ・ 答えやすい発問を取り組みやすい問題を用意して、生徒の自信や達成感を高める。

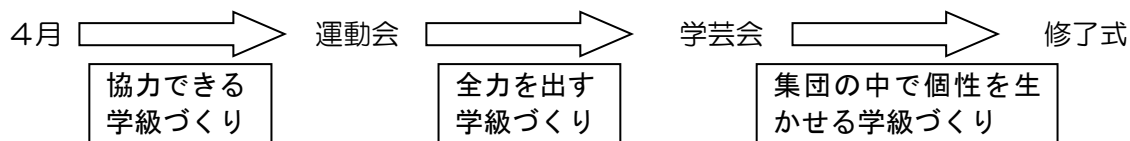


小・中学校のグループ討議の様子

2. 現在、集団を育てる学級づくりの向上を目指して工夫している点

【小学校】

- ・年間を見通した学級づくり計画



- ・善悪をしっかり全体に教える。
- ・目標を持たせて取り組み、よい行動をほめて全体を高めていく。
- ・児童自身で考え、行動できる学級を目指し、はじめはしっかりとした学級の仕組みづくりをして、少しずつ自分たちで動けるようにしている。
- ・グループエンカウターの導入と、月1回の席替えによる仲間づくり。
- ・褒めるときは、がんばった・すごい・やったねという気持ちが伝わるように、大げさに褒める。
- ・お互いに認め合える学級をつくるために、児童同士での話し合いを重視。学習面と生活面の両方で自分たちの力で話す場を積極的に設定。
- ・リーダーを育てるために、スケジュール表を貼り出すなどして、児童が見通しをもって計画し活動できるようにしている。
- ・時間があるときは、できるだけ子どもの遊びの中に入って行って、一緒に遊ぶ。
- ・給食を一緒に食べて（子ども達の班の中に混ざって）、話をしている。
- ・下校の際、教室を出る前に子ども達全員とハイタッチをしている。
- ・集団を育てる。① 認める・褒める（担任・子どもの間、子ども同士）、② 子どもの主体で行う活動、③ 担任の影をだんだんうすくしていく。
- ・子供たちの思いをきちんと聴くようにしています。ひとりひとりの思いを大切に、そこから学級としてどうまとめていくか、担任の思いも伝えながら学級としてできること、すべきことを一緒に考えるようにしています。
- ・当番活動など1人1役を振り分け、集団の中での責任感を持たせている。

【中学校】

- ・学級掲示、学級通信を活用し、個々の成長の振り返りの機会を設ける
- ・構成的グループエンカウターを活用して集団の力を育てる
- ・全ての行事においての一人一役、振り返り、クラスへの帰属意識を高める工夫
- ・生徒1人ひとりとの密なコミュニケーションづくり
- ・行事や節目で生徒自身が成長を感じられるような場面の設定
- ・安心して学校生活が送られるように、学級への所属感を高める工夫
- ・集団の中で生きていくために必要なコミュニケーションスキルや規範意識を、中学校の校則や授業でソーシャルスキルトレーニングの授業等を通して指導
- ・生徒指導部を中心に、常日頃生徒の様子を交流し、全職員で生徒を見守る体制づくりを行っている。
- ・学級目標を日頃から意識するよう声をかけている。
- ・集団の教育力、集団の中で個を育てる、集団を教師がリードしていき、最後は離れてもいいように工夫

3. 今回の研修を受けて、基礎学力を高める指導で今後実践してみたいと思った点 【小学校】 ○交換家庭学習帳の取組 ○子どもたちが目的意識を持てるような指導 ○板書等、授業後の記録を残し、振りかえること ○期間を決めた、保護者へのいいこと電話 ○低学年における家庭学習の具体的な取り組みの工夫が聞けたので、取り入れていきたい。 ○全員参加の授業を目指す。学力差をうめるためにも共同解決は大切だと痛感した。 ○課題を早く終わったときの指導の工夫（問題の解き方の説明を考える等） ○全員音読の多用 ○児童が「楽しい」「学びたい」と意欲を持って学習できるよう工夫 ○手を挙げるのは当たり前という意識を持たせるために、「グー・チー・パー」で表すやり方。 ○言葉づかいに気をつけるために、黒板に「はい」「いいえ」などの言い方を貼っておく。 ○視覚的に見やすい教材（大きな時計など・・・）を使用する。 ○子どもたちを本気にさせる指導 → 子どもたちを認める、褒める、信じて待つ 子どもと一緒に本気になれる教師になろうと初心を思い出した。 【中学校】 ○生徒の集中力を維持させるために、15分毎に内容やアプローチ法を変える。 ○学校目標・学年目標・学級目標を頭において、各クラスの教材研究をするよう心がける。 ○競わせることを避けがちだが、点数で比べたり競走したりする方法をとらなければ、競い合うことも有効なのだと感じた。 ○家庭学習の班ノートはおもしろいと思いました。 ○小学校グループの中での話もありましたが「やる気」がベース・基本となってくることなのでそこ大事に育てていき「好きになる」指導をこれからも続けていきたいと思いました。
4. 今回の研修を受けて、集団を育てる学級づくりの向上を目指して今後実践してみたいと思った点 【小学校】 ○縦系と横系との子どもとの関係づくり・学級経営 ○縦系と横系の関係づくりがとても参考になりました。自分も3：7を意識してみたい。また、学級の目指しているところを明確化させるための目標達成表を自分でもやってみたい。 ○子ども同士が褒め合う、認め合う環境づくり（帰りの会で友だちの良いところを言うなど） ○時間をつくって（丸つけなど、なんとなかなることを後に回したりして）、子ども達と遊ぶ時間をもっとたくさんもとうと思います。 ○子どもたちを本気にさせる指導 → 子どもたちを認める、褒める、信じて待つ 子どもと一緒に本気になれる教師になろうと初心を思い出しました。 ○子どもたちに情熱を持って向き合うこと。 ○何か1つ、学級として誇れることをつくること。 ○挨拶はなぜするのか、ルールはなぜあるのか、意味をしっかりと理解させる。 ○自分で出来ることは、自分でさせる。 ○遊びの中での指導

【中学校】

- 行事後の反省をしっかりと生徒が行うこと、そして教師が事後の見通しを持つことが大事だと感じた。
- 集団という言葉の意味を踏まえながら指導にあたることの重要性を感じた。
- 行事ごとの計画をしっかりと行うべきだと感じたので今後取り組みたい。
- 給食指導時のルールづくり
- 構成的グループエンカウターの運営力向上
- 生徒に役割を与え、学級への所属感を高めると共に、自ら進んで学校生活を送るという意識を高めたい。
- 掲示物の工夫や各行事への取り組ませ方の工夫



グループ発表の様子

5. 今回のウィンターセミナーでの感想・意見

【小学校】

- ・植松先生の提言は、自分の中にある情熱や向上心を思い出すよいお話を聞かせていただいたと思います。目標達成表は、冬休みにやってみようと思います。提言者の先生方、本当にお疲れ様でした。
 - ・それぞれ悩みを抱えていることが話し合いからわかり、同じように悩みながら仕事に取り組んでいる同僚と協力することが大切なのだと改めて感じた。
 - ・違う学校の先生と交流する機会は多くないので、各学校や学級の実践を知ることができました。同時に初任校・初任者として自分に求められている力や立場について考える機会になり、そのために何をしなければならないのかが明確になった気がします。年末でお忙しい中、このような機会を与えてくださり、ありがとうございました。
 - ・提言を聞いて、教師という職業への誇りとプライドを持って取り組もうと改めて思う事ができました。グループが同じ学級・学年でまとまっていたため、交流しやすく、意見交換がしやすかったです。
 - ・それぞれの年代の課題もあり考えさせられる場面がたくさんありました。メンター方式のグループ協議がとても有意義でした。大変ありがとうございました。
 - ・経験年数の近いもの同士のグループですが、学級経営を行う上で大切にしていることが似ており、改めて自分の学級経営を振り返る機会になりました。
 - ・通級指導や特別支援の先生方が集まったグループだったので、それぞれの先生の実践例や悩みを聞くことができ、とても為になりましたし、励まされました。冬休み明けの指導に活かしていきたいと思います。
 - ・今後、小中混合のグループ協議も行ってみたいと思いました。小中連携はとても大事だと思っているのですが、いまいち連携がとれていない様に感じることもあり、若手同士話す機会を頂き、お互いどう考えているのか、話す事ができたらと思います。
- ▲特別支援グループでした。提言は、大変素晴らしく、分かりやすいものでしたが、グループ協議では、「集団を育てる学級づくりの向上」は協議しづらく、「子どもが集団の中で活動しやすくなるために」と少し視点を変えた協議になりました。通常と特別支援とのグループに分けるのであれば、協議内容を変えてもよいと思いました。

【中学校】

- 提言者の加藤先生のご教授や、グループ討議、そして教育委員会の皆様のお言葉すべてが有難いと感じました。教育現場に長年携わる方々の体験談とその思いに励まされ、初心の私が現在抱いている悩みを軽くして下さいました。と同時に、「更に頑張ろう。」という気になりました。次回は、初対面でも色々な先生方と話し合いの中でより多く関わりたいです。
 - 先輩の様々な実践を具体的に聞くことができた。また、討議に関する話だけでなく、様々な悩みや相談に対するアドバイス等をもらうことができたので良かった。
 - 特別支援学級の担任として、同じような悩みをもっていたりや経験をされたりしている先生方と意見を交流することができ、とても参考になった。提言の中では、小学校での勤務経験を生かした学級経営の方法など、私が将来的に通常学級を持ったときに取り入れてみたいと思う内容だった。ありがとうございました。
 - 年の近い先輩教員の話をとくさん聞けてとても勉強になりました。今回学んだことを冬休み明けから実践していきたいと思います。
- ▲グループ協議は、小規模校と大規模校で分かれてしまい、実践的な協議にはなりませんでした。
- ▲開催時期の検討をしてほしい。サマーセミナーや他の市町村のウィンターセミナーのように、いくつかの日から選択して参加できるような形式にはならないのか。
- ▲外部からの講師を招いての講演会形式もよいのではないか。



グループ発表の様子